

鹿苑寺ろくをんじ

〔平野ひらのの北にあり、世に金閣寺きんかくじといふ、原は西園寺家の廃蹟なり。足利三代義満公あしかが よしみつこうの別業とす。遺命によつて

寺とし、夢窓国師むそうを開基とす。応永年中時々天子こよりく、に行幸し給ふ、椿葉記及び北山行幸記に見ゆ〕林泉りんせんに三重金閣さんちゆうのきんかくあ

り、露盤に鳳凰を置、上を究竟頂くつきやうちやう、中を潮音洞てうおんとう、下を法水院はふすゐゐんといふ。〔悉く金■を以て押、故に金閣きんかくの名あり〕池を

鏡湖きやうこといふ、九山くせん八海石あり、御茶水おちやのみづを銀河泉ぎんか せんといふ、龍門瀑に鯉魚石あり、安民沢あんみんたくに臥龍石あり、明王院みやうわうゐんに石鐫せきせんの不

動を安ず、前に渡天石又独鉈水あり、春日明神かすが みやうじんを鎮守とす。実に此閣は前漢宣帝ぜんかんのせんていの營給ひし麒麟閣きりんかくにも比せんや。

○足利三代將軍義満公あしかが よしみつこうは、延文三年八月廿二日京都に誕ず、童名を春王しゅんわうといふ、応安元年十二月征夷大將軍の宣下あり。

永和四年室町花亭むろまちはなのていに移て室町殿と号す、館内に名花数千株を樹る、時の人花御所はなのごしよといふ。同十二月從二位に叙す、同

二年に從一位に叙し、御直衣初あり、永徳二年正月左大臣に任ず。同年將軍家紀州和歌浦き しうわ かのうらに遊び、又富士山ふじ さんに赴く。

応永元年將軍を長子義持よしもちに譲る、義満公太政大臣よしみつこうだいじやうだいじんに任じ兵杖宣下あり。〔世に伝ふ、義満相国よしみつに任ぜんと請ふ、朝廷

これを許さず、故に義満かろがゆゑ、公家の領地を押領し、義満自国王よしみつ みづからとなつて細川ほそかはを摂家とし、畠山はたけやまを清花として朝廷を廢せ

んとす。これによつて朝廷大に驚て、大相国を勅許す〕応永五年六月鹿苑院ろくをんゐんに三重高閣を営む、同六年相国寺しやうこくじに七重

大塔を建る、金閣きんかくへ退居より北山殿きたやまどのと称す。大明皇帝たいみん一書を贈り黄金一千兩を寄る、書は参議すがはらひでなが菅原秀長すがはらひでなが長艸ながそうす。応永十

五年五月六日前征夷大將軍太政大臣さきの從一位准三宮義満公北山亭さんくうよしみつこうきたやまていにて薨ず。〔年齢五十一〕鹿苑院殿ろくをんゐんでんと号す。勅使来弔ちよくしらいてう

太上天皇だじやうてんわうの号を贈らる、嫡子義持よしもちこれを辞す。大明帝だいみんていより祭文を作て恭献王と賞ず。

